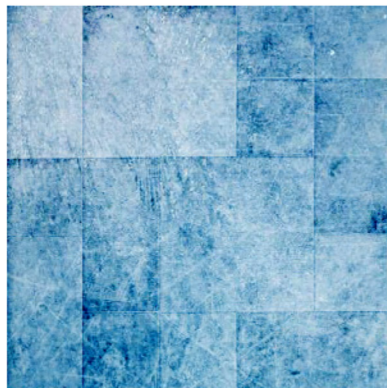


ある地域では熱加工をしてガラスを変形させ凹凸をつくることで、道路にパブリックスペースをつくっていました。近所の人に話を聞くと、利用者の声を反映した形状に日々更新されているそうです。変形が容易なガラスならではのですね。



ガラスの道の地下に設けられた通路です。自然光がガラスを通してふりそぐ為、地下なのに明るくてとても綺麗でした。

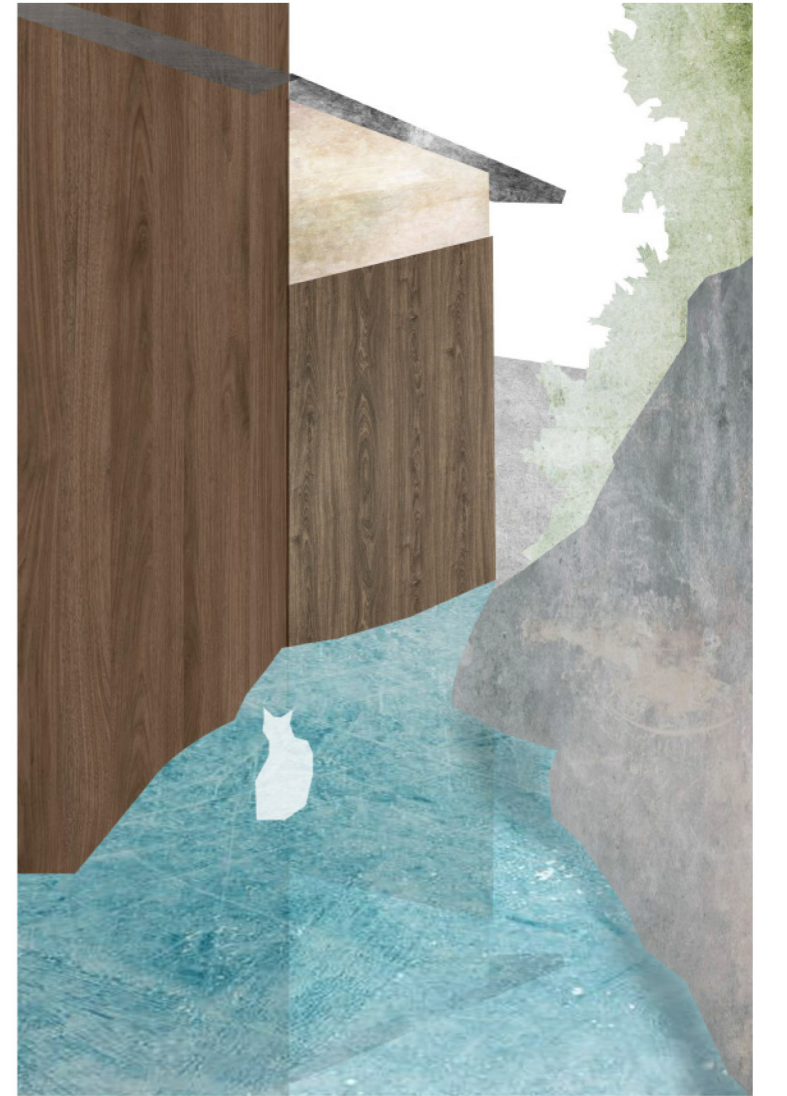


ガラスの道は地域によって、様々な色やテクスチャのものがありました。風景に馴染む様、地域の特色になる様に考えられているそうです。

これは、この前海を見にドライブに行った時の写真なんですけど、海の青と道路の青がとてもあっていて素敵でしょう。



昔ながらの古い町並みが続くところに行った時の写真です。古民家と自然と猫とガラスが綺麗でとても日本的。



がらすのみち

2050年、特殊に開発されたガラスが道路の舗装材に使われ始めて10年ほどが経ちます。路面温度の減少や透過性によるインフラ整備の利便性を狙ってガラスを道路の舗装材に使用するという話が出たらしいですが、今までのアスファルトで覆い尽くされた舗装と違い、青を基調とした透き通る道路により日本の風景は一変しました。海外から日本を訪れた方々には、ジャパンプルーな風景と話題な様です。さて、ここでは私がこの10年で撮りためたガラスの風景を紹介させていただきます。



透過性のあるガラスは、照明や広告など様々なものを埋込むことができるので、ごちゃごちゃとせず町がとてもシンプルな風景になったように思います。また、地下通路を歩いていると、うっすらと下を走る車や、上部を通る配管が見えたりするので楽しいです。

最近では交通ルールも変わってきました。青信号の代わりに進むことができる道路のみ矢印や横断歩道をガラス道路に表示させる仕組みです。矢印に沿って動けることや、赤信号の場合は道路に停止線以外何も表示されない為、間違いが起りにくく、交通事故が少なくなります。今は実験段階で従来の信号機と併用しての使用ですが、将来的には信号機は不要になるかもしれませんね。

